

考古学実習2B- II

科目ナンバリング ARC-210
選択必修 2単位

高木 暢亮

1. 授業の概要(ねらい)

前期の授業では実際に土器を製作したが、後期は前期の授業内で作った土器の図化(実測図の作成)を中心に授業を進めていく。考古資料は写真や拓本といった方法で資料化されることもあるが、最も一般的なものが実測図による図示である。実測図は「実測」という言葉からも分かる通り、単なるスケッチではない。資料を精確に計測して図化したもので、計測や図化の方法にもある程度決まったやり方がある。この授業では、実測図作成の知識を身につけることがねらいとなる。また、実際に遺跡から出土する土器は多くの場合破片の状態であり、完全な形で出土することはほとんどないので、実測図の作成の前に破片をつなぎ合わせて復元する接合という作業が必須となる。授業内でもまず最初に土器を壊して破片の状態にし、それを接合して復元するところからスタートする。授業は前半は復元作業、後半は実測図の作成作業が中心となる。

2. 授業の到達目標

- 1.土器の復元作業に関する基礎的な知識を学ぶ。
- 2.実測図作成に関する基礎的な知識を学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

履修者は最低1点の土器実測図を提出すること。授業に取り組む姿勢と実際の作業を通してどの程度知識を修得したかによって成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

2Hと3Hの鉛筆をそれぞれ1本ずつ用意すること。実測図を作成する際に必要となる。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 土器の接合1回目
- 【第3回】 土器の接合2回目
- 【第4回】 土器の接合3回目
- 【第5回】 土器の接合4回目
- 【第6回】 土器の接合5回目
- 【第7回】 土器の接合6回目
- 【第8回】 オンライン
- 【第9回】 土器の実測1回目
- 【第10回】 土器の実測2回目
- 【第11回】 土器の実測3回目
- 【第12回】 土器の実測4回目
- 【第13回】 土器の実測5回目
- 【第14回】 土器の実測6回目
- 【第15回】 土器の実測7回目